

本校生物生産科卒業生（令和5年度卒業）が、南日本新聞に掲載されたので紹介します。



ほれた和牛で 地元で活気を

○：鹿児島県立農業大学
校(日置市)
の畜産学部



肉用牛科で
学ぶ寺地敦
真さん(18)

の目標は、地元で肉用牛の
農家になること。農業や畜
産とは無縁の家庭で育った
が、夢を聞いて理解してく
れた両親の後押しもあり入
学を決意した。

○：畜産との出会いは、
中学1年生の時。知人の肉
用牛の繁殖農家で手伝いを
始めた。最初は週1回程度
だったが、高校時代には学
校帰りに毎日足を運んでい
た。「餌を食べる姿が、と
にかくかわいい」と熱中し
ていった。

○：一方で、若手の担い
手不足に危機感を抱いた。
地元での就農にこだわりの
は、地域の活性化に一役買
いたいとの思いもある。「品
評会で高い評価を得られる
ような肉用牛を育てたい。
和牛で地元で活気を」と力
を込める。(大神紅葉)